

川本町立川本小学校（令和2・3年度）

1 研究主題

『自他を大切にし 学び合い 目標をもって共に高まっていこうとする子どもの育成』
—教育活動全体を通じて推進する人権教育を通して—

2 研究主題を設定した理由

本校は人口約 3300 人の町にある 1 校だけの小学校である。本町には中学校も 1 校だけである。しかも学年 20 名程度で、クラス替えがない状態で 9 年間を過ごすという状況である。大体が素直で明るい子ども達であるが、幼少期からの人間関係などが固定化されてしまっているという問題点がある。そのためか、自尊感情や自己有用感が低い傾向がアンケート結果などからも見て取れる。また様々な家庭環境の問題などもあり、生活面、学力面において課題を抱えしんどい思いをしている児童も多数いる。

児童一人一人がこれからの将来をたくましく切り拓いて生きていけるようにするために、自立と社会参加を可能とする力を育成し自己実現を支援していく教育活動である進路保障の理念に基づいた人権教育の取組を推進する必要がある。

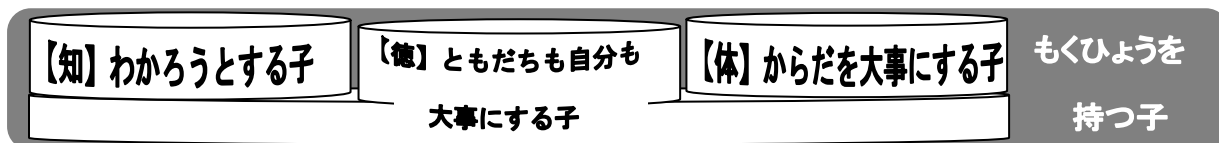
こうした実態から令和 3 年度は学校教育目標・めざす子ども像を以下のように設定した。

【学校教育目標】

ふるさとを愛する、たくましい子どもの育成

～子どもも職員もいきいきとした学校づくり～

【めざす子ども像】（か・わ・も・と）から



そして、人権・同和教育の目標は、『学校生活を通して、人権尊重の精神に基づき、自分たちの生活の中にある差別や偏見・不合理に気づき、それを許さない心情を育て、望ましい人間関係を築くことができる児童の育成』としている。この目標の視点を持ちながら、めざす子ども像に向かっていきたい。

3 研究の重点・特色について

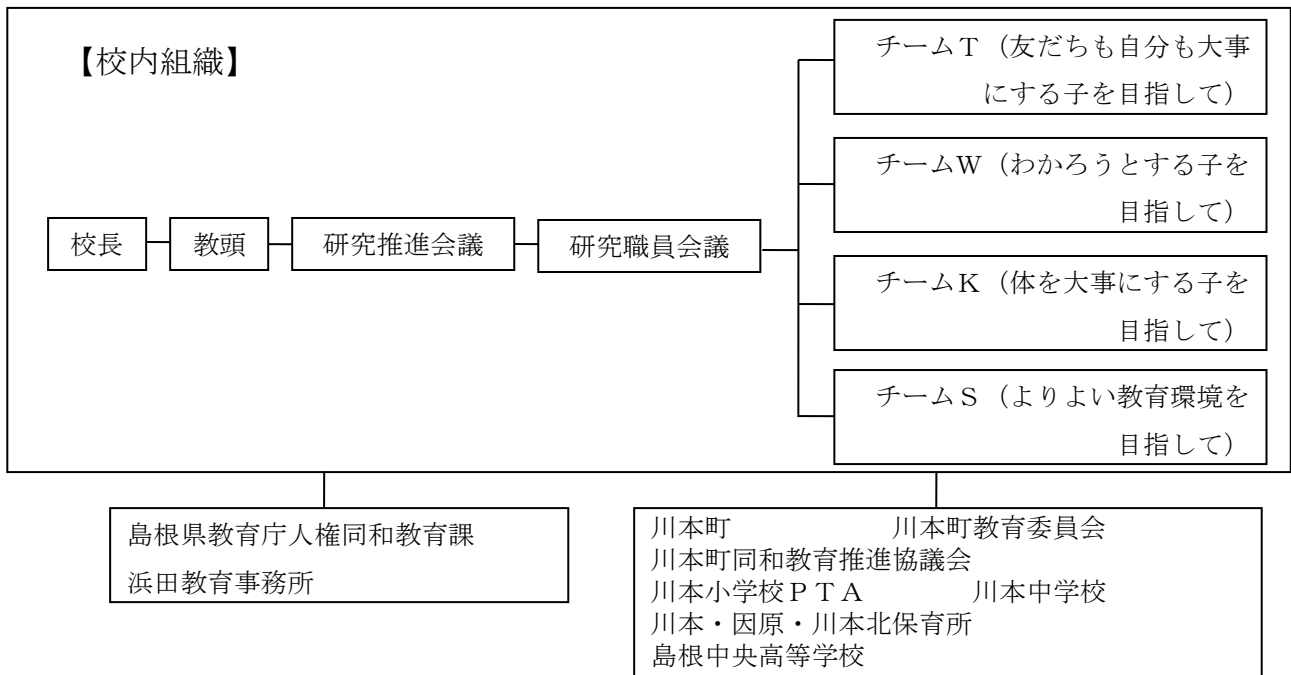
人権教育を学校で進めるうえでの大きなヒントとして「しまねがめざす人権教育 学校教育編」がある。その中で、学校において人権教育を推進する視点として次の 3 点を挙げている。

- 子どもたち一人一人の学びの保障（人権としての教育）
- 人権が尊重される環境づくり(人権を通じての教育)
- 人権に関する知的理解と人権感覚の育成(人権についての教育)

本校では、「良かったと思える教育活動には人権教育がある」という考えのもと、すべての教育活動をこの 3 つの視点のフィルターを通して見て、教育活動全体を通じて人権教育を推進していく。そして、めざす子ども像の実現に向かっていく。

4 組織及び推進体制

ア 推進体制全体の概要 および イ その他関係機関の概要



ウ 組織及び推進体制構築に当たって特に留意した点等

- ・ 様々な教育活動において、目指す子ども像を意識した目標の設定
- ・ 目指す子ども像を達成するために組織したチームによる施策の運営

5 研究の経過及び内容

時期	内容	備考	
4月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の実態を語る会 →めざす子ども像に迫るための重点目標の決定 ・ 第1回研究推進会議開催 (研究の方針確認) ・ 第1回研究職員会議 (含むチーム会) →具体的施策を考え、さらに3つの視点というフィルターを通して取組を見る →各チームで取組の実施へ 	参加者 6名 参加者 18名	
4月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育全体計画・指導計画の見直し ・ 学校だよりによるPTA、地域への説明 	各チームによる取組	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA総会の場でPTAへの説明 		参加者 70名
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校関係者評価委員会での取組の説明 		参加者 12名
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価児童アンケート実施 ・ 学校評価教職員アンケート実施 ・ 教職員研修 (校内研修) ・ 第2回研究推進会議開催 (中間検証) ・ 第2回研究職員会議 (含むチーム会) 		研修 18名 参加者 6名 参加者 18名
9月	(中間検証と取組の見直し)		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価アンケート (児童・保護者・教職員) 実施 	参加者 6名	

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究推進会議開催（年度末検証） ・第3回研究職員会議（含チーム会） ・学校関係者評価委員会（取組について外部からの評価） ・第4回研究推進会議開催（次年度の取組について） 	参加者 18名 参加者 12名 参加者 6名
----	--	------------------------------

6 各チームの取組

【チーム W（わかろうとする子）】

1 学ぶことが好きになる学び合う授業作りの推進

(1) 主体的で対話的な学習の在り方探求

①研究授業…年1回、全員が授業公開をし、授業を通して子ども達の成長を確認し、職員の授業力を上げる。

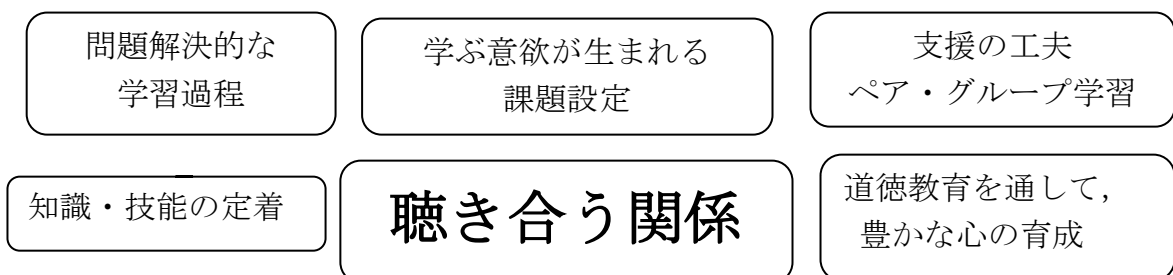
- ・公開授業の教科は、算数。（学び合いがしやすい単元等を考える）
- ・特別支援学級担任は、児童の実態に合わせて教科を指定する。
- ・専科担当は、担当教科で行う。
- ・ペアやグループでの子ども達のつぶやきや様子を分担して記録する。
- ・教師の支援「聴く」「つなぐ」「戻す」を記録する。
- ・指導案とともに座席表を作成・配付する。

②研究協議会

- ・指導者からの自評（全体）
- ・授業記録に基づく協議（記録者全員発言）
 - ・学び（深い学び）がどこで成立していたか。
 - ・学びがどこで途切れたか。
 - ・学びが成立した（途切れた）理由は何か。
- ・本時のまとめ（より深い学びを実践するためにはどうすべきか等）（全体）
- ・佐藤先生来校時の研究授業では、①②ののち、佐藤先生による指導を受ける。

各グループの子どもの姿から

(各教科等での実践)



(土台)

「一人ひとりを大切にする」

自分の考えをもつ・友だちに自分の思いを伝える・友達の思いを受けとめる

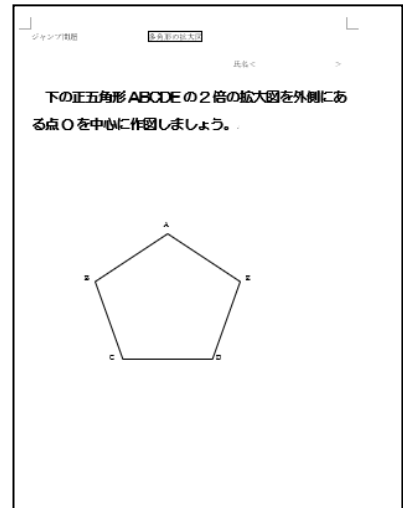
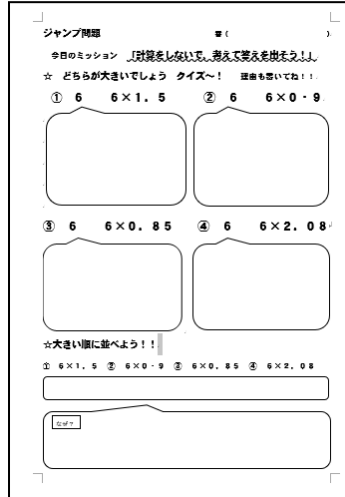
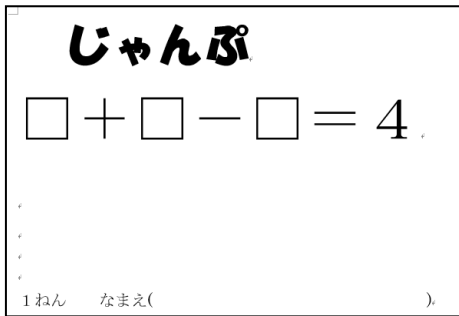
(2) 課題設定および支援の仕方

①課題設定の工夫

- ア 子どもが学習の主体となり学ぶ意欲がもてる単元・学習の課題を設定する。
- イ 教科の深い学びを実現するためのジャンプ課題を開発する。
- ウ 学び合いを成立させるためのペア・グループ学習の設定場面（課題）を工夫する。

【ジャンプ課題】

学級の実態に応じて、全体の3割が解くことができる課題を作成。



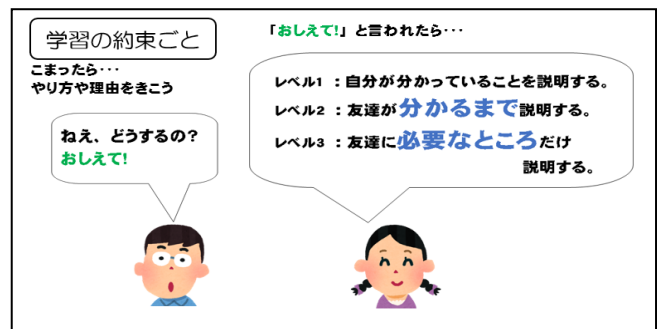
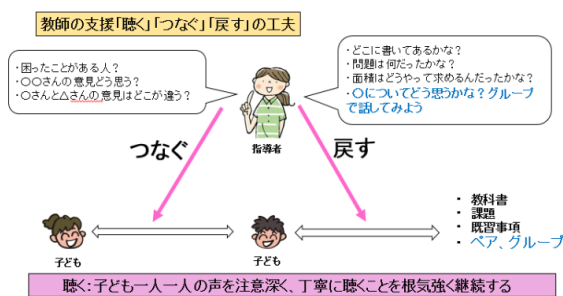
②支援の工夫

- ア 一人ひとりの学びを保障する教師の支援「聴く」「つなぐ」「戻す」を工夫する。
- イ 学び合い学習が停滞した時のペア・グループ学習への教師の支援を工夫する。
- ウ 聴き合う関係作りや学び合い学習を成立させる意図的働きかけを工夫する。

「教え合い」ではなく「学び合い」

「教え合い」～「お節介の関係」分かっている子が一方的に教える。

「学び合い」～「さりげない優しさの関係」友達との信頼関係の構築。



【研究授業の様子】


2 基礎・基本の確実な定着を図るための、主体的な学ぶ態度の育成

(1) 基礎・基本の定着を図る主体的な学びの土台作り

① 自学ノートへの取り組み

家庭学習の習慣化を図り、自ら学ぶ子をめざして「家庭学習の手引き」を配布した（全学年）。

4月の学級懇談会で保護者に「家庭学習の手引き」について説明をし、各学年の学習時間や学習例を示した「イエベンのやくそく」を確認し、自学ノートの取



ることが重要です。
学習に対する意欲や興味・関心を高めるために、家庭の言葉かけが大切になります。目標を決めて、努力できるようにあなたかく見守りながら励ましましょう。

60分以上

○毎日 見返り必ず を目安に がんばろう。

始める前に

- 何を学習するかを決めます！（予習・復習や興味をもっていること）
うーん よし 決めた！ 目標を決めて努力する！！
- 決まったら、静かなところで、落ち着いて 始めましょう！
- ていねいに！
- 終わったら 見直しをしよう！

時間があったら こんなこと できるようにしよう（自主学習）

○漢字練習をする。	○実験の手順や結果をまとめる。
○予習・復習をする。	○実験道具の使い方をまとめる。
○作文や日記を書く。	○詩や俳句・短歌を暗唱する。
○辞典や図鑑で調べる。	○自然の生き物を詳しく観察する。
○地図や地球儀で地名を覚える。	○計算の仕方を覚える。
○ニュースを見て内容を書く。	○速く正確に計算する。
○ドリルや問題集をする。	○文章問題を解く。
○テスト勉強をする。	○声に出して読む。
○歴史年表を作る。	○ローマ字や英単語を書く。
○新聞を読んで意見を書く。	○年間の総復習をする。
○読書ノートを書く。	

継続は力なり 5年生 中学校生活に希望がもてる6年生

こんな支援をお願いします

- ☆**5年生になれば、自分で学習を決める力もついてきますが、「やむを得ない」という理由をもち、お父さんの自習時間を減らすように、お願いいたします。**
- ☆**学習する場所を決め、授業時間外、時間を立てて学習が始められるようにしましょう。**
- ☆**家族の一員として、仕事や役割を決め 家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにしましょう。**

組を始めた。

【家庭学習の手引き】

低学年は、毎日の宿題をやり遂げることを大切にして家庭学習の習慣を図った。3年生は自学ノートを初めて行うため学級で取組方法を学んだ後にスタートし、4年生以上は年間を通して自学ノートの取組を行った。

本校における自主学習におけるめざす子ども像は、教師像は以下の通りである。

(めざす子ども像)

- ・自ら学ぼうとする子
- ・家庭学習を続けられる子
- ・勉強を楽しんでいる子
- ・友だちと一緒に学ぼうとする子

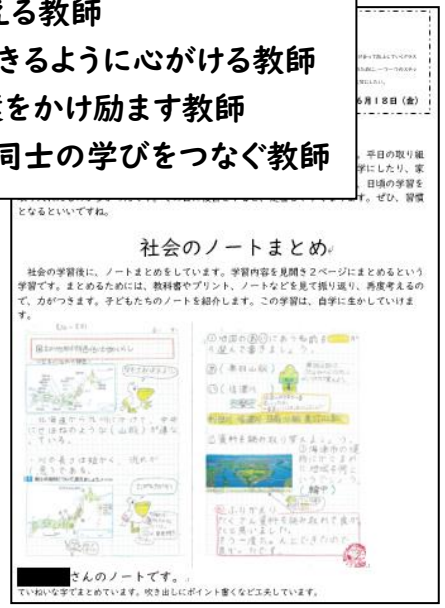
(めざす教師像)

- ・ヒントを与える教師
- ・どの子どもできるように心がける教師
- ・温かい言葉をかけ励ます教師
- ・子どもたち同士の学びをつなぐ教師

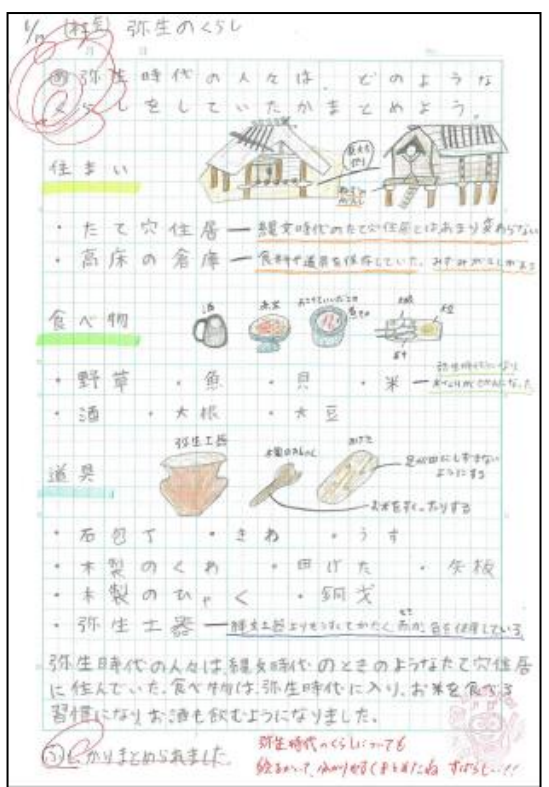
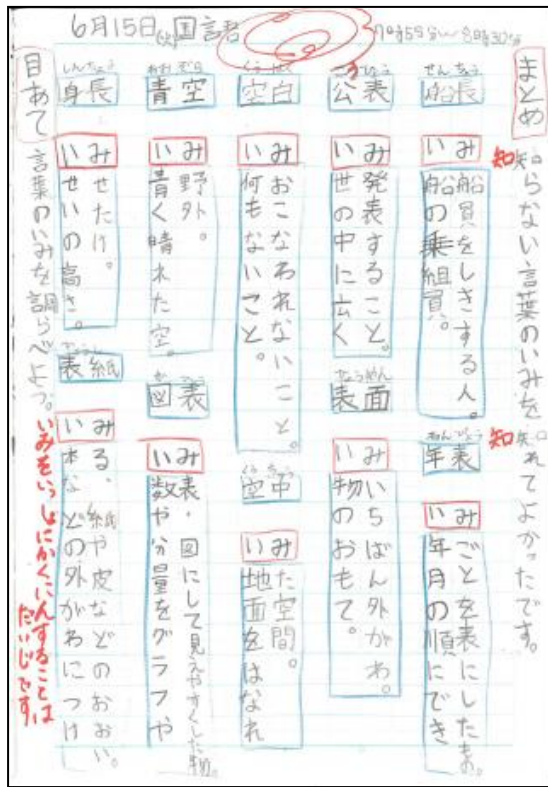
以上のような子どもを育てるために、各学級で取り組んできた自学ノートをもとに、アドバイスをしたり、ノートへコメントをしたり、学級だより等で紹介したりするなど取組を工夫した。

○自学コンクールの取組

本校では、自学ノートコンクールを4年以上で年3回行っている。今年度は3年生から自学ノートコンクールに参加した。学期ごとのめあてを知らせ、期間を決めて取り組んでいる。1学期は日付やタイトル、1ページの最後まで書くということを重視し、「ノートにきちんと書く」というめあてで1週間の取組を行った。審査員として担任や教務、管理職が取り組んだ自学ノートを見て優秀賞、最優秀賞を選び、全校朝礼で表彰をした。また、ノート展示を行うことで、子どもたちが立ち止まって自学ノートを見る様子が見られた。自分の学習めあてを決めて取り組んだり、自学コンクールという目標に向かって取り組んだりする姿が見られるようになってきた。



【お便りによる自学の推進例】



②イエベン便りの配布 【自学ノート取組例】

家庭学習の時間を貯金として貯める取組を全校で行っている。今年度からは「にこにこチャレンジカード」の取組と合体させ内容を精選した。3年生以下は家庭で記入し、4年生以上はタブレットを利用して入力するようにした。イエベン便りでは、家庭学習についての調査結果や子どもと保護者の感想を紹介している。各学年の家庭学習の充実と目標時間の達成ができるように家庭と協力して取り組んでいるところである。

川本小 教務 イエベン便り 頁3.8.9 他4

イエベン(家庭学習)はなぜやるの？ イエベン貯金(6/14~6/18)

4月のスタートから累計16か月が経過しております。今年度は11月導入となり熱い日々が続きますが、子どもたちが学習に取り組み、休み時間に元気に遊ぶ姿に驚かされることが多く、こちらも元気をもらっています。

放課後のぐんぐんタイム(1~3年生：月曜日、4~6年生：木曜日)にも立ち寄り取り組んでいます。ぐんぐんタイムでは、子どもたちの「分かる・楽しい」という気持ち大切に、基礎基本の学力及び学習の定着を図るために20分間の学習に取り組んでいます。各学年の担任以外に2名の教員が入り個別支援を行っています。

さて、今年度も、学期に1回「学習特訓」講座を行い、帰宅後の学習の様子を把握したいと思っております。ご協力をお願いします。

今年度は、「にこにこ元氣チャレンジカード」(左のカード)に「学習特訓」の記入をお願いします。4年生以上は学校で「学習特訓」の入力を行います。

1~3年生の保護者の方は子どもと一緒に記入していただきたく思います。子ども達が喜ぶ姿をもって家庭学習に取り組めるよう、見守りも励ましてお願いします。

4月の学校懇談会にて配布した「イエベンの手引き」には、家庭学習の約束や学習特訓、おすすめメニュー等を載せています。今一度確認していただき、机の周りの環境を整えて集中して学習できるように、協力をお願いします。もしも、御質問等は、お呼びしますので、遠慮なくお知らせください。

1・2年→宿題づけ
3・4年→自主学習のスタート
5・6年→自主的・計画的に

つづけることが大切じゃ がんばるのじゃぞ!

イエベン先生

イエベンだより R3.7.20

1学期、4~6年生を対象に自学ノートコンクールを行いました。3年生は学校で自学について呼びかけ、コンクールに参加しています。「自学」とは、各級とは別に自分で内容を考えながら学習のことです。6/14~6/18の4日間、取り組んだノートを選別しました。

イエベン講座(2023年6月18日)の様子(講師：山本先生)と同じ時期に行なった自学ノートですが、普段から継続して取り組んでいる児童の姿が見られるものもありました。

2学期、3学期にも自学ノートコンクールを行う予定です。「日付」や「お名前」が必ず入っているように書いて、引き続き取り組んでいきましょう。

【4~6年生】
 ◎わかりやすくまとめている。
 ・タイトル・色分け・絵や図・資料
 ◎ページの裏表までしっかりと丁寧に書いている。
 ◎学習したことがわかることやポイントが述べられている。
 ◎継続して取り組んでいる。

第4回 自学ノートコンクール 結果

懸賞方法	6年・●●●さん、●●●さん
	5年・●●●さん、4年・●●●さん
	3年・●●●さん
懸賞賞	6年・●●●さん、●●●さん、●●●さん
	5年・●●●さん、●●●さん、●●●さん
	●●●さん、●●●さん、●●●さん
4年・	●●●さん、●●●さん、●●●さん
3年・	●●●さん、●●●さん、●●●さん
	●●●さん

イエベン便り6/14~6/18 結果報告

8月には、にこにこ元氣チャレンジ(1~6年)を行い、家庭学習の定着を調査しました。毎日の学習時間の積み重ねを記録していくことで、誰がどれくらい学習できているかを計り知ることができました。

各学年のイエベン講座平均時間

1年生：平均25分(目標10)	【イエベン便り】
2年生：平均27分(目標20)	
3年生：平均74分(目標40~50分)	
4年生：平均45分(目標40~50分)	
5年生：平均55分(目標80~90分)	
6年生：平均56分(目標80~90分)	

にこにこ元氣チャレンジをやってみて(児童感想)

- ◎学習する楽しさや勉強の大切さを知ることができてよかった。(3名)
- ◎勉強が30分を超えて、40分50分を超えて。(4名)
- ◎学習が楽しくなってよかった。(3名)
- ◎お前は、学習特訓で100分くらいです。(2名)
- ◎お前は勉強が大好き。(1名)

③読み書き計算の実態把握

基礎・基本の確実な定着を図るために、各学級において漢字や算数学習の小単元においてミニテストを行っている。今後は、全校で共通する取組も加えて行っていくことで、基礎・基本の定着を図っていくことが必要である。

(2) 放課後学習(ぐんぐんタイム)の実施

各学年、週1回の放課後学習を下記のように設定して行っている。

①内容 算数・国語の基礎・基本的内容，及び学習進度に応じた内容をプリントやスキル等で行う。

②実施日と時間

○1～3年 月曜日 14：25～14：45

○4～6年 木曜日 15：45～16：05

③学習支援体制

担任と他2名（管理職または専科，学習支援員，他学年の担任）で行う。支援の仕方については，以下の二つがあげられる。

○担任が支援の必要な児童を見て，担任外が丸付けを行う。

○担任と一緒に丸付けや，困っている児童への個別支援を行う。



(3) 使えるようになるための情報教育の充実

本校はこれまでも各教室に書画カメラ，大型テレビ，教師用パソコンと ICT 機器が配置されていたが，昨年度全児童に個人用のタブレットが導入された。発達段階に応じ積極的に活用することを目指して，いろいろな学習や活動場面で情報機器の活用を行うとともに，情報モラルについての指導にも取り組み始めている。特に情報モラルに関する内容については，人権に関する知的理解にもつながる内容である。タブレット等の積極的な活用を通して，情報モラルについての知識を深めたり，まわりの人と気持ちよく生活するためのルールやマナーの大切さに気づいたりできるように各学級で取り組んでいるところである。

以下の表は，昨年度からこれまでの情報モラルについての指導をまとめたものである。

【情報モラルについての指導】

※低学年については指導していない。

	学習や活動場面	指導した内容
中 学 年	二人一組でタブレットを使う時	①順番に交代しながら使うこと，②話し合いながら進めることなど，相手のことも考えながら活動することの大切さ
	Teams でメッセージを送信する時	言葉遣いや絵文字などの使い方にも気をつける必要があること
	ペアやグループでタブレットを使って活動する時	相手のことも考え，話し合いながら活動することの大切さ

高 学 年	【国語】 著作権や引用のしかたの学習	①インターネット活用，情報の発信に関するき まりとマナー
	【道徳・学級活動】 自由と責任についての学習	②情報の権利（著作権など）に関するきまりと マナー
	【理科・社会】 タブレット等を使って調べる時	（指導した注意点） ラインなどの言葉による通信のみでは発信側
	【総合的な学習の時間】 タブレットを使つてのプレゼン テーション作成時	と受け取る側に誤解が生じやすく，十分注意し て発信する必要があること。自宅の写真など個 人情報を軽い気持ちで載せると事件に巻き込ま れる危険性があることなど。

【チーム T（友だちも自分も大事にする子）】

1 自分のよさや友だちのよさがわかり，相手の気持ちを理解しようとする子の育成

（1）異学年交流活動の充実などによる，人権意識を高める活動の実施

①異学年交流活動（縦割り班活動）

川本小学校では，1グループ10人前後の異学年のグループ（縦割り班）を構成し，1年間を通して掃除をしたり昼休みに遊んだりしている。異学年との関わりを通して児童同士が助け合ったり，良いところを認め合ったりするなど，よりよい人間関係を築くことができるようになることをねらいとしている。



【縦割り班出発式の様子】

【人権集会 あったかタイム】

③人権の木
2学期になると日々の学校生活や学級の中で、お互いのよさや頑張り、ありがとうございますの気持ち



ちを紙に書いて貼っている。学級の友だちへのメッセージは各教室へ、他の学年の友だちへのメッセージは校長室前の廊下へ貼っていく。メッセージが貼られると立ち止まって読んだり、「もうこんなに貯まったね。」とメッセージを嬉しそうに眺めたりする姿が多く見られた。

(2) 特別支援教育や通級指導教室への理解を深めるための「理解教育」の実施

令和元年度から、各学年の発達段階に応じた「理解教育」を、特別支援学級担任や通級指導教室担当で連携して実施している。通常の学級の児童にとっては、校内の様々な「学びの場」について知る機会であり、特別支援学級の児童にとっても「自分たちの学級の良さ」に気づくきっかけになっている。中学年からは友だちとの関わりを考える内容(SST)や、特別支援学級の授業体験を取り入れたりしている。高学年では、近隣にある「石見養護学校」から講師に来ていただいて、石見養護学校の授業の様子やねらいを知ったり、クラスの中で自分と友だちの「おなじ」や「ちがい」について考えたりする内容を取り入れている。

①各学年のねらい

1年生：川本小学校へようこそ（学級紹介）

2年生：一人ひとりの良さを見つけよう。～みんなちがってみんないい～

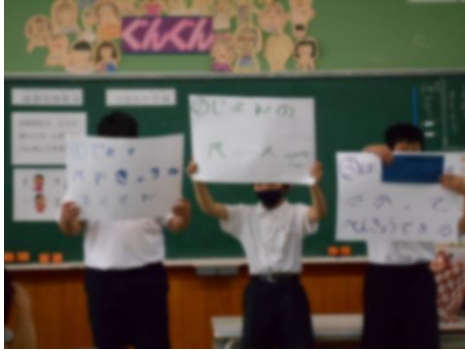
3年生：自分のいいところ、友だちのいいところを見つけよう。

4年生：いろいろな学び方を知ろう。

5年生：自分と友だちの「おなじ」や「ちがい」について考えよう。

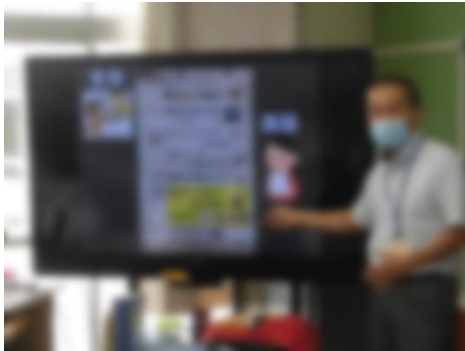
6年生：いろいろな学び方を知ろう。～自分の関わりを振り返ろう～

②指導の実際



【たんぽぽ学級・ひまわり学級のいいところを伝えよう】（2年生）

まえに、たんぽぽ学級とひまわり学級はなんのためにあるか知りたいなと思っていてきょうはじめてしつたのでよかったです。
（2年生児童の感想）



【石見養護学校について知ろう】【お互いのおなじ・ちがいを考えよう】（5年生）

今日の勉強では、みんないろんなちがいがあるけれど、仲良く協力しておたがいを知り合うことも大切だと思いました。自分のタイプを知って、ふだんは分からないことを知ることもおもしろいなと思いました。
（5年生児童の感想）

4年生指導案 「いろいろな学び方を知ろう」

時間	学習内容	備考
9:40	○川本小クイズをしよう。(藤井, 山尾) ・4つの「学ぶ場」について考えよう。	・導入でリラックスした雰囲気を作る。
9:45	○川本小学校の4つの「学ぶ場」について知ろう。(それぞれ順番に話す) ・通級指導教室 (ことば・からだ) ・たんぽぽ学級 (にこにこ・どんどん) ・ひまわり学級 (ほんもの・たいけん) ・4年生教室 (児童からの言葉で)	・4つの「学ぶ場」で大切にしていることをキーワードで紹介する。

9 : 5 5	○たんぽぽ・ひまわり学級体験をしよう。(山尾・藤井) ・ダンスを一緒に踊ってみよう。 ・ダンスのポイントを友だちに教えてもらおう。	(パワーポイント) ・ミッション 1～3 ・時間があれば、感想を発表する。
1 0 : 0 0	○「通級指導教室」の体験をしよう。(小田) ・「点つなぎプリント」に挑戦してみよう。 ・お隣さんと答え合わせをしよう。 ・他の場面で自分ならどうするか考えよう。(2人組)	
1 0 : 2 0	○今日の勉強の感想を書こう。(渡邊)	
1 0 : 2 5	○終わりをしよう。	

6年生指導案「いろいろな学び方を知ろう。～自分の関わりを振り返ろう～」

時間	学 習 内 容	備 考
9 : 4 0	○「自分チェック」をしよう。(小田) ・「聞く」「見る」「動く」学習スタイルについて知ろう。 ・「自分の学習スタイル」を理解しよう。 ・ペアで比べあってみよう。	・自分チェック表 ・パワーポイント
9 : 5 5	○中学生になったときに、友だちが困っていたら自分はどうするか考えよう。(藤井, 山尾) ・どんな言葉をかけたらいいかな?	・グループで書きこむワークシートを用意する。
1 0 : 1 0	・グループで考えた言葉を発表しよう。 ○4つの「学ぶ教室」の紹介を聞こう。 ・6年生教室 ・たんぽぽ学級 ・ひまわり学級 ・通級指導教室	・4人で分担して発表する。
1 0 : 2 0	(若あゆ学級・中学校通級・石見養護学校) ・今日の学習を振り返ろう。(佐々木) ・今日の勉強の感想を書こう。	
1 0 : 2 5	○終わりをしよう。	

(3) 人権教育に視点をあてた授業公開

毎年、1月の授業公開日に合わせて全学年で人権教育に視点を当てた授業を公開している。

昨年度は、人権同和教育課の出前講座で、授業づくりの研修を行った。全教職員で授業づくりについて考えるきっかけを作ることで、授業改善及び人権教育への理解を深めることができた。



【授業づくりの研修会】

令和2年度の公開授業の教科とねらい	
一年	<p>◆学活「男の子・女の子」</p> <p>◆男の子と女の子の体の違いを知ったり，体を大切にしたりすることを学習します。違いを知ったうえで友だちを大切にするためにどのようなことに気をつけるかを考えます。</p>
二年	<p>◆道徳「森のともだち」</p> <p>◆意地悪で乱暴者のコンキチが，みんなが仲良く助け合っけてくらししている森にひっこしてきました。ある日コンキチが狼に襲われてしまいます。森の動物たちはどうするか，コンキチはどう感じるか，それぞれの心情を自分に置き換えながら考えます。仲良く助け合うことのできる友だちを大切にすると道徳的心情を育むことをねらいとしています。</p>
三年	<p>◆道徳「ウィルチェアラグビー」</p> <p>◆2学期の総合的な学習の時間にパラリンピックの種目についてみんなで調べました。そのうちの1つ「ウィルチェアラグビー」についてくわしく勉強します。ウィルチェアラグビーのルールや日本代表として活躍する選手の思いなどを知ることを通して，笑顔の大切さなどについて考えます。</p>
四年	<p>◆道徳「正しいことは勇気を持って」</p> <p>◆身の回りにありそうな3つの場面でどのような声かけをすればよいか具体的な解決方法を考えることを通して，正しいと思ったことを行うことの大切さについて考えたいと思います。</p>
五年	<p>◆学活「わたしはだれでしょう」（自分を見つめ，友だちのことをもっと知ろう）</p> <p>◆事前に書いたお互いの良いところ，がんばっているところを聞きながら，それが誰のことであるか考える中で，お互いの思いがけない面を知り，親しみや理解を深めることをねらっています。お互いの良さ，がんばりを尊重しながら，クラスとしてより良い集団生活ができるような人間関係作りをこれからも大切にしていきたいと考えています。</p>
六年	<p>◆社会「世界に歩み出した日本」</p> <p>◆差別をなくしていくための団体である全国水平社を作った西光万吉と，全国水平社のシンボルである旗のデザイン，水平社宣言（分かりやすくしたもの）を知り，差別をなくすために立ち上がった人々の思いを考え，友だちと考えたことを伝え合いたいと思います。</p>
たんひま	<p>◆道徳「こんなときどうするの」</p> <p>◆授業にあたって</p> <p>場面ごとに描かれた困っている人の考えや気持ちを想像したり，友だちと考えを交流したり，実際にやってみたりすることを通して，相手の立場に立ってどのように行動したらよいかや温かい心で接することの大切さを考えたいと思います。</p>

(1) 毎月の生活目標を達成するための学級や委員会での具体的な取り組み

① 毎月の生活目標の設定

川本小学校では、年間を通して以下の点を中心にして指導を行うことを年度当初の職員会議で共通理解を図っている。そして、4つの項目の中から、毎月の生活目標に取り入れ指導に生かす取り組みを行っている。

【校内生徒指導の重点項目】

- 気持ちの良いあいさつ・返事・言葉遣い（いつでも・どこでも・誰にでも）
- 友だちも自分も大切にする（人権教育の観点から）
- 時間を守る（チャイムとともに行動する）
- 環境を整える（服装、はきものそろえ、掃除、整理整頓）

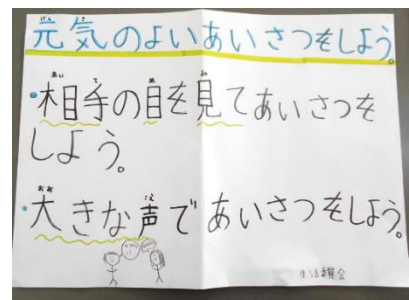


【毎月の生活目標】

各学級での取組はもちろんのこと、委員会とも連携して、全校で取り組んでいく。

月	目 標
4月	時間を守ろう
5月	元気のよいあいさつをしよう
6月	*チームTの話し合いで決める。（人権教育の観点から） 言葉づかいに気をつけよう（友だちの呼び方・ていねいな言葉づかい）
7月	*6年生と相談して決める。 身だしなみをきちんとしよう
8・9月	時間を守って、てきぱき行動しよう
10月	友だちのいいところを見つけよう（人権教育の観点から）*人権集会
11月	*6年生と相談して決める。
12月	*児童の様子を見て、チームTの話し合いで決める。
1月	*児童の様子を見て、チームTの話し合いで決める。
2月	*6年生と相談して決める。
3月	気持ちの良いあいさつ・返事をしよう（卒業式などに向けて）

生活目標の内容については、時期や子どもたちの様子を見ながら決めている。学期に1回は、6年生が目標を決める月を設けている。最高学年として、その時の全校の様子を見て「～な学校になってほしい」という願いをもって、話し合いをして決めている。また、年に2回は、人権教育の観点から目標を設定している。特に、10月は人権集会に合わせて「友だちのいいところを見つけよう」という

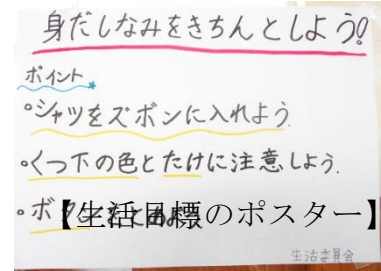


目標を設定し、取組をしている。

②学級や委員会での具体的な取組み

毎月の生活目標をうけて、生活委員会がいくつかの取組をしている。取り組んでほしい内容や具体的なポイントを書いたポスターを月初めの委員会の時間に作成し、各学級に呼びかけや掲示のお願いに行っている。

また、具体的な取組みとしては、5月の「元気のよいあいさつをしようの目標に合わせて、あいさつオリンピックをおこなった。生活委員の子どもたちが、朝活動の時間に週2回、各教室にあいさつをしに回った。「相手の目を見て」「大きな声で」あいさつができていくかのポイントを確認し、良かった学年は昼の放送で紹介した。



7月の「身だしなみをきちんとしよう」では、身だしなみについての3つのポイントを示し、朝活動の時間に各学級の様子をチェックしに行き、昼の放送で意識づけをした。

各学級では、生活委員会の取組を受けて、それぞれの学年の発達段階に応じて取り組んだ。月末には取組について振り返りをして、今後の学校生活に生かせるようにした。

(2) 生活目標の成果と課題についての共通理解

生活目標の取組について、担任や専科、児童支援担当がそれぞれ振り返りをして、成果や課題について職員会議、職員朝礼などで共通理解を図った。せっかく取り組

月	生活目標 *各学級での取り組みはもちろんのこと、委員会とも連携して、全校で取り組んでいく。	人権・同和教育関係	教育相談 子どもを語る会	理解教育
4月	○時間を守ろう	チーム会		1年生
5月	○元気のよいあいさつをしよう	全体計画 について	子どもを語る会	
6月	○言葉づかいに気をつけよう (友達の呼び方・ていねいな言葉づかい)		教育相談 no	2年生
7月	(児童の様子を見て考える。)			
8・9月	○時間を守って、てきばき行動しよう		子どもを語る会	
10月	○友達のいいところを見つけよう	人権週間 について	教育相談 no	5年生
11月	※人権・同和教育の観点からの目標を設定する。	人権集会		
12月	(児童の様子を見て、考える)	研究会		4年生
1月	(児童の様子を見て、考える)			3年生
2月	(6年生と相談して決める)			
3月	気持ちのよい挨拶・返事をしよう (卒業式などに向けて)			6年生

★必要に応じてチーム会を行う。(火または水曜日)

【チーム T カレンダー】

んだことをその後も生かしていけるように、確認したりきまりについて再度検討したりした。

また、チーム T での様々な施策に、見通しをもって取り組むことができるようにチーム T カレンダーを作成して、時々確認するようにした。

3 教育相談や QU を活用した、より深い児童理解の推進

(1) 児童アンケートや QU アンケートの結果をもとに、学級経営や教育相談、仲間づくりに関する校内研修の実施

① 児童アンケート、QU アンケート、教育相談

各学期に、児童にアンケートをとり、担任と 1 対 1 で話す時間を設けている。今年度は、話す時間を確実に確保するため、3 日間、午前中を 40 分の短縮授業にして、給食前の 20 分を相談時間にあてた。また、短い相談時間の中で児童の思いをより明確にするため、アンケートの質問の項目を増やしたり、頻度がどれくらいであるかを表記したりして、具体的な内容に変更した。1 年生は、給食準備の時間もあるため、他学年よりも更に早い時刻から相談を開始した。担任が児童と相談している間、教室には専科や支援員が行き、児童に対応した。アンケートと、担任の総括表は、各学年・学級で入学から卒業まで 1 つのファイルに綴じ、管理職をはじめ、教務、通級担当、養護教諭、児童推進支援に回覧する。そうすることにより、担任だけでなく、組織全体で児童を見守り支援することにつながっている。

<p>アンケート (1 年生)</p> <p>川本小学校くらしのアンケート (1 学期)</p> <p>() 年 名前 ()</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このアンケートは、あなたが気持ちよく生活するにはどうしたらよいか考えるために行います。あなたがここに書いてくれたことを大切にしますので、あなたが感じていることや考えていることを聞かせて下さい。</p> </div> <p>1 学校は楽しいですか。 (楽しい ・ まあまあ楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない)</p> <p>3 休み時間は楽しいですか。 (楽しい ・ まあまあ楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない)</p> <p>7 学校のことや家のことについて困っていることや心配なことがありますか。 (ある ・ 少しある ・ ない)</p> <p>8 学校の中で「少し心配だな」「困ってそうだな」と思う人がいますか。 (いる ・ いない)</p>	<p>アンケート (2～6 年生)</p> <p>川本小学校くらしのアンケート (1 学期)</p> <p>() 年 名前 ()</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このアンケートは、あなたが気持ちよく生活するにはどうしたらよいか考えるために行います。あなたがここに書いてくれたことを大切にしますので、あなたが感じていることや考えていることを聞かせて下さい。</p> </div> <p>1 学校は楽しいですか。 (楽しい ・ まあまあ楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない)</p> <p>2 勉強がわからなくて困ることがありますか。 (よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ ない)</p> <p>3 休み時間は楽しいですか。 (楽しい ・ まあまあ楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない)</p> <p>4 遊びに入れてもらえず、いやな思いをしたことがありますか。 (5 回以上ある ・ 3～4 回ある ・ 1～2 回ある ・ まったくない)</p> <p>5 友達からからかわれたり、いやなことを言われたりしたことがありますか。 (5 回以上ある ・ 3～4 回ある ・ 1～2 回ある ・ まったくない)</p> <p>6 友達からたたかれたり、けられたりしたことがありますか。 (5 回以上ある ・ 3～4 回ある ・ 1～2 回ある ・ まったくない)</p> <p>7 学校のことや家のことについて困っていることや心配なことがありますか。 (ある ・ 少しある ・ ない)</p> <p>8 学校の中で「少し心配だな」「困ってそうだな」と思う人がいますか。 (いる ・ いない)</p>
--	---

【教育相談アンケート，左：1年生用，右：2～6年生用】

QU アンケートは、6月と11月に行う。6月の結果を受けて、学年部（低・中・高）で夏季休業中に分析し、2学期の学級づくりに生かしている。11月に2回目のQUを行い、1回目の結果と比較したり、成果と課題を確認したりする。普段一緒に過ごしているだけではわからないことがQUや教育相談から見えることもあるため、児童の困り感に寄り添った指導をするためには、不可欠である。

(2) 子どもを語る会の実施

授業時数確保、朝の時間の有効活用のため、ここ数年は職員会議の時間を短くし、職員朝礼を週1回にしている。そのため、児童について語る時間を設けることが難しい状況にある。そこで、職員会議の始めのところで、気になる児童や学級の様子を伝え合い、支援方法を考え、情報を共有する場としている。

(3) 児童一人ひとりの困り感に寄りそった指導

本校では、昨年度から毎週火・木曜日15:45～16:45まで放課後学習を行っている。これは、家庭的・学力的に支援が必要な児童が数名参加しているものである。学習支援員と専科（児童推進支援）が2人で対応し、家庭学習や休んでいてできなかったテスト、マス計算などを行い、学力保障に努めている。

また、不登校・不登校傾向の児童についての支援会議を管理職・担任で行い、支援方法を探っている。SSCやSCとも連携を図りながら、支援の仕方を考えているところである。

【チーム K (体を大事にする子)】

1 学習に向かう体づくりの推進

(1) 励まし合い、努力ができる体づくりの取組

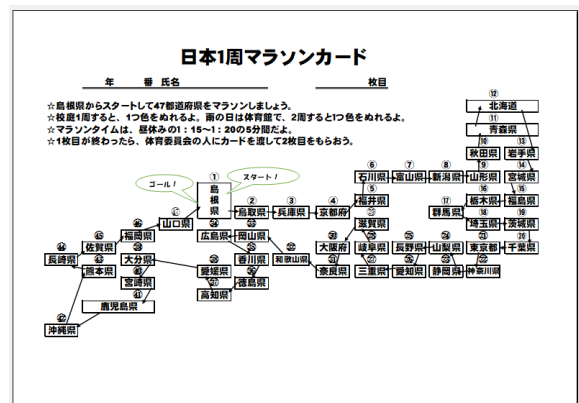
①川小オリンピック



体育委員会の児童が中心になって毎年、全校遊びを企画、運営している。子どもたちに人気なのは「全校鬼ごっこ」である。低学年から高学年まで楽しめるように、鬼の数を調整したり、ルールを少しずつ変えたりするなど工夫しながら取り組んでいる。今年度は秋に「たて割り班対抗リレー」も計画している。委員会の子どもたちはどうすればみんなにとって楽しいリレーになるか考えながら企画しているところである。

②日本一周マラソン

1 1月から1月にかけて全校でマラソンに取り組んでいる。週に2回、昼休みの時間を利用して行っている。日本の地名が書かれたカードに、走った周数に応じて塗っていくようにしている。



校庭が狭いため、たくさんの人数が一度に走るの難しいと考えた。

そこで、最初に高学年が5分間走り、その後、低学年が5分間走るようにしている。高学年が走る時には低学年の子どもたちが、低学年が走る時には高学年の子どもたちが「がんばれー」と声援を送る場面もよく見られた。

③なわとび集会



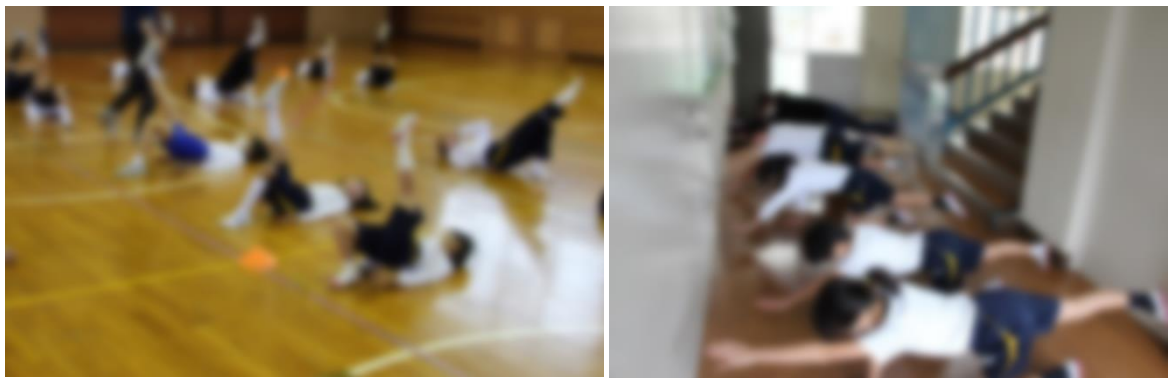
例年12月ごろからなわとびを使った体力向上に取り組んでいる。体育の時

間に個人記録に挑戦している。ペアでお互いのとんだ回数を数え合いながら進めているので、自然と応援をしながら活動する姿が見られる。

また、クラスで長縄に取り組んでおり、クラスの記録を更新しようと励まし合いながらがんばっている。最初はどうも跳べずに落ち込んでしまう子もいるが、友だちの励ましの言葉でがんばり、なわを跳び越せるようになった子もいた。

なわとび集会では、高学年の子どもたちの個人演技や、次々と長縄を跳び越えていく姿を見て、あんなふうに跳べるようになりたいとあこがれを持つ子も多かった。

(2) 授業に向かえる体をつくる体幹トレーニング



授業に向かえる体づくりのために、毎週金曜日の朝の時間を使って全校で体幹トレーニングに取り組んでいる。年間を通じて取り組んでいるので、子どもたちにもやり方が定着している。

入学したばかりの1年生には難しいので、6年生が対面で1年生についてやり方を教えたり、一緒にトレーニングをしたりしている。

2 個人の意識を高め、実践力を養う健康教育の推進

(1) 子どもの実態に即した指導

① 生活習慣病予防教室（4年生）



生活習慣病予防には、健康の3原則である「規則正しい生活リズム」「適度な運動」「バランスの良い食事」（睡眠・運動・食事）が大切である。1学期に受けた血液検査（脂質）の結果や事前の生活リズム調査から、自分の課題を見つけ、自

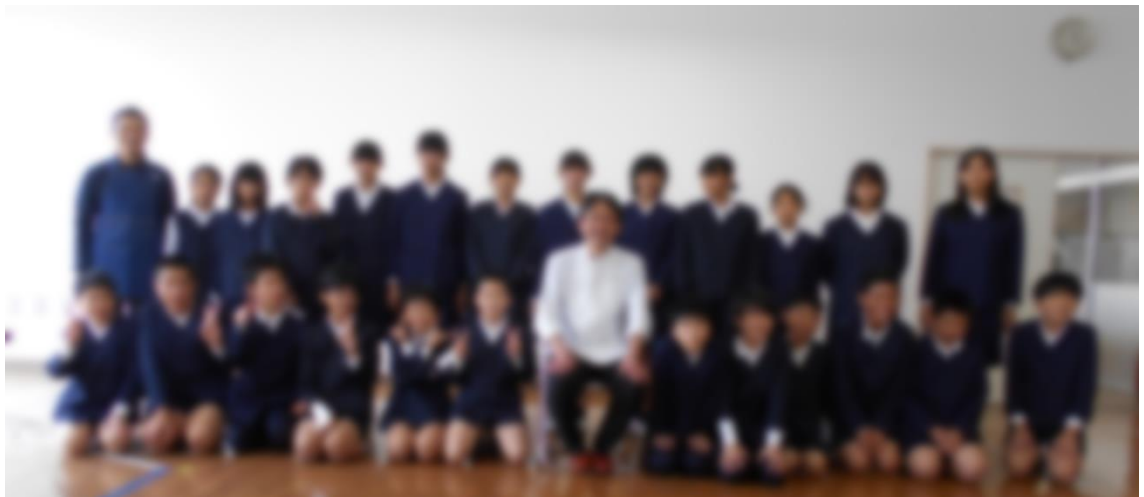
分の健康は自分で守るという意識を持ち，行動変容につなげてくれるよう，地域の方と連携して取り組んでいる。学習終了後には自分の身体を大切にしたいという思いを強くする児童が多くなった。

② 自分で作るお弁当の日（小学5年生～中学3年生）



小学5年生から中学3年生までの5年間でテーマを決めステップアップ方式で内容を深めながら進めている。調理技術を身に付けることで達成感を味わったり，家族への感謝の気持ちがうまれたり，将来に向けての健康的な食生活の実践力が養われたり等とても有意義な取組となっている。お互いのお弁当を見ながらレシピを教え合ったり，苦労話をして笑い合ったり，賞賛し合ったりという，微笑ましい姿も見られる。

③ 味覚の授業（6年生）



プロのシェフから5つの基本味（塩味・酸味・苦味・甘味・うま味）について試食しながら教えてもらい，味わうことの楽しさと奥深さを知る授業である。シェフ自身の料理への思いや，この仕事を選んだ理由，仕事内容を語ってもらうことで食への関心も高まり，おいしい料理作りのためには心をこめることが大切であることにも気付いていた。シェフの話から自分の将来の仕事に思いを馳せる児童もいた。実際にシェフからスパゲティのミートソース作りを伝授してもらう調理実習では目を輝かせて取り組み，修了証を手にした際は最高の笑顔を見せてくれていた。

(2) 保護者の意識を高めていくような連携

①にこにこ元気チャレンジ週間

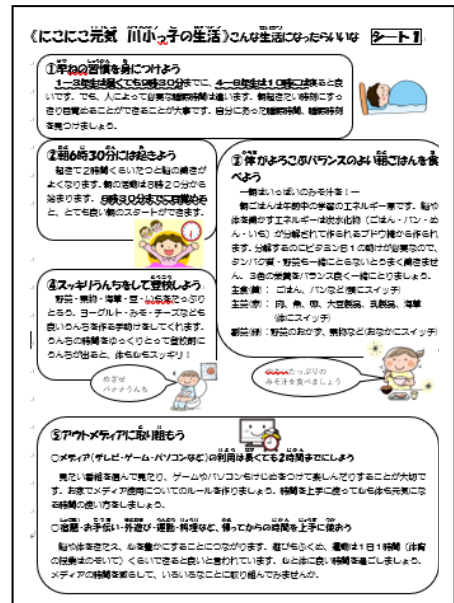
～早寝早起き朝ごはんすっきりうんちとアウトメディア～

生活習慣を改善することにより、学習意欲や体力の向上を図ることをねらい、平日の5日間、早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち・アウトメディアの5つの項目の生活習慣チェックを行った。

『にこにこ元気 川小っ子の生活』で理想的な生活の目安を示し(右図)1～3年生は家庭で、4～6年生は学校で記録し、取組後に保護者のコメントを記入し提出するという流れで行った。学校へ提出後は、担任や養護教諭、栄養教諭から励ましのコメントの記入し返却している。

保護者の多くが協力的で、コメント欄に感想や頑張っていたこと、直していきたいことなどをたくさん書いてくださっている。学校からのコメントも子どもはもちろん保護者がやる気になるような内容になるよう心がけている。

令和3年度は、学期ごとに重点項目を絞って取り組むことにした。1学期は『早寝早起き』2学期は『すっきりうんち』、3学期は『朝ごはんとし、アウトメディアを加えた2項目ずつとした。また、4～6年生は、タブレットによる入力としたので、楽しみながら取り組めたようだった。兄弟がいる川本中学校と同じ時期にしたり、保健だよりだけでなく学級通信に掲載したりして、家庭が取り組みやすいように工夫した。

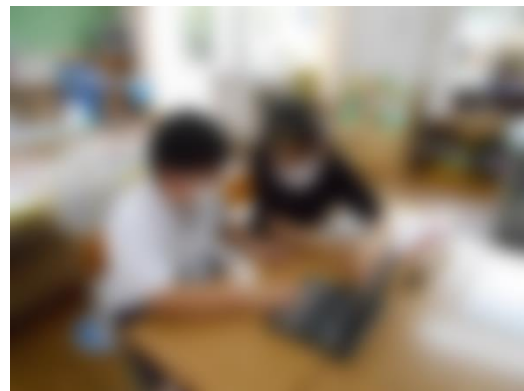


【こんな生活になったらいいな シート1】

にこにこ元気チャレンジ シート2(4～6年生)

第3回: 2月1日(月)～2月5日(金) 第 5週

ねらい	達成を継続 目標 10:00 まで	早寝 6:30 まで	朝ごはん ※主食(米)・主菜(肉・魚・卵)のそろったパ ンチの多い朝ごはんを食べよう! ※朝ごはんは1日のおおききを食べよう!	※スッキリうんちをしてスッキリし よう! ※毎日排便、バナナを1つ!	※メディアを遊ぶルールをお家の人と決めよう。 ※メディアは2時間までにして、学習・読書・お 手紙・運動などいろいろなことをしよう。
できたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
できなかったら	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
2月 1日 (月)			緑 赤		
2月 2日 (火)			緑 赤		
2月 3日 (水)			緑 赤		
2月 4日 (木)			緑 赤		
2月 5日 (金)			緑 赤		
合計 (○の数)					



【R2にこにこチャレンジシート】

【R3 タブレットによる入力：ひまわり学級】

②すこやか委員会 (学校保健委員会)

本校では、学校保健委員会を「すこやか委員会」と名付け、全保護者参加で毎年1回計画している。例年、PTA保健体育部と連携し、テーマを決めて講師を依頼

し、講演や実技指導などを行っていたが、令和2年度は、新型コロナ感染予防対策のため、地域ごとに各教室に分かれリモートによる研修に変更した。『朝はいっぱいのおみそ汁を食べよう』と題し、朝食をテーマに地元の食生活改善推進委員会会長の講演を行った。保健委員会と給食委員会の発表もあり、「おみそ汁のうた」の振付をみんなで真似るなどなごやかなムードで行われた。学校医からは、新型コロナウイルス感染症に関する情報や災害時に大切なことなどを話してもらった。



【各教室での様子】

保護者の感想では、「朝のおみそ汁は朝の元気チャージにピッタリ」や「野菜たっぷりのおみそ汁を作りたい」など前向きな意見が多くあった。

当初は、リモートで行うことに不安があったが、地域ごとで集まってあたたかな雰囲気の中で行うことができた。

【チームS（川本小のみんなのために）】

1 学びやすい教育環境整備の推進

(1) スクールサポートセンター（以下、SSC）の活動をとおして教育環境の整備

SSCとは、学校事務を教育委員会、小学校、中学校が共同で実施する組織名称である。

児童が安全・安心に学校生活を送れるよう、SSCによる学校視察を行い、危険箇所等は迅速に修繕対応し、学びやすい教育環境の整備に取り組んだ。危機管理体制の情報共有も、人権教育につながっている。



SSCによる学校視

(2) ICT機器の効果的な活用のための職員研修や情報提供

2 働きやすい職場環境整備の推進

(1) 職員研修や打合せの時間を確保

水曜日の放課後の時間確保

(2) 働き方改革の推進

職員会議のペーパーレス化

日報（職員連絡）のペーパーレス化

→R3年度、Teamsを利用し、職員間の連絡を行っている。

3 保護者・地域との連携

(1) 保護者との連携が必要な取組のチーム間の調整

家読カード，にこにこ元気チャレンジ，家勉調べ等

(2) 地域の「ヒト・モノ・コト」の発掘に努め，学習，環境整備に効果的に活用できるように，教育委員会との連携の窓口

6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

一人ひとりを大切にする取組を続けていけば，自他を大切にし，相手の気持ちを理解しようとする子どもが育つであろう。

年間を通した異学年交流活動（縦割り班遊び・全校遊び・人権集会など）を積極的に取り入れたことにより，休み時間に声を掛け合ったり仲良く遊んだりする姿，子ども同士の間で心温まる姿が見られた。また，理解教育や子どもを語る会，子ども一人ひとりの困り感に寄りそった指導などを通して，一人ひとりの児童が大切にされていると実感を持てるようになり，安心して学校生活を送ることができ，互いを思い合える関係が広がってきているのではないかと考える。

自他を大切にし，相手の気持ちを理解しようとする子どもが育ってきているので，このような一人ひとりを大切にする取組を今後も継続的に行い，安心した学校生活につなげていきたい。

共に学び合う授業を進めていけば，目標をもって共に高まっていこうとする子どもが育つであろう。

すべての教科等で「共に学び合う授業（子ども全員が主体となり学習が進む授業）」を行うために，主体的で対話的な学習の在り方の探求を続けてきた。職員一人ひとりが，学び合う授業とはどんな授業か，学び合う授業を進めるためにどうすればよいか，子どもの実態に合った取組を授業者が考え，工夫し，実践を積み重ねることができた。そのことにより，少しずつではあるが，「分からない」と言える子どもや友だちの考えを受容的に聴く子ども，友だちと関わり合いながら学ぼうとする子どもが増えてきていると感じている。

年度途中には，「主体的に学習に取り組む子」を育てるためにどのような取組をすればよいか，各学級の実態から「一人残らず授業に参加する姿」とはどんな姿か具体的に考え，取り組んでいるところである。

(2) 今後の課題

- すべての子どもが「学校が楽しい」と思えるように，引き続き，一人ひとりを大切にするとはどういうことなのか，具体的にどのような取組をしていけばいいのか，現在の取組を「しまねがめざす人権教育」で示している人権教育を推進する3つの視点を踏まえ，すべての教育活動を見直し，改善を図っていく必要がある。

- 本校のめざす子ども像に迫るために、4つのチームがそれぞれ取組の重点、さらに具体目標と具体的施策を考えて実践してきた。しかし、研究実践メンバーが毎年変わるため、年度当初に研究主題の具体的なとらえかたの共通理解をしっかりと行ってから取り組んでいく必要がある。

(3) 次年度に向けて

今年度までの取組の検証をしっかりと行い、成果と課題から見えてきたことを活かして、継続して取り組んでいくことが大切であると考え。そのために、以下のことを行うことが大切であると考え。

- ①年度当初の職員の共通理解（「めざす具体的な子どもの姿と具体的な手立て」「検証方法」など）
- ②各チームの実践とチーム間の連携（各チームでの取組の成果と課題の全職員での共有など）
- ③実践と検証の積み重ね（学期ごとの振り返りと次学期への見直しや改善の検討など）

今後も「子ども一人ひとりを大切にすること」を大切に、人権教育の視点から活動の意義を再確認しながら全職員でアイデアを出し合い、活動内容の見直しを図り、改善策を考えて実践を積み重ねていきたい。